（別紙様式4）

令和7年7月1日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
専門学校トヨタ神戸自動車大学校	平成4年9月16日	上田　博之	〒　651-2102 （住所）　兵庫県神戸市西区学園東町4丁目1番地 （電話）　078-796-2230
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人 トヨタ整備学園	昭和47年3月16日	横山 裕行	〒　193-0944 （住所）　東京都八王子市館町2193番地 （電話）　042-673-2065

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
工業	工業専門課程	自動車整備科	平成 7(1995)年度	－	平成27(2015)年度

学科の目的	21世紀の業界を背負って立つ人材の育成 業界の中核そして将来は管理職、経営者の輩出
学科の特徴（主な教育内容、取得可能な資格　等）	【取得可能な資格】国家2級ガソリン自動車整備士、国家2級ジーゼル自動車整備士、トヨタサービス技術検定3級

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	2,045 単位時間	572 単位時間	330 単位時間	1,143 単位時間	－ 単位時間	－ 単位時間
			－ 単位	－ 単位	－ 単位	－ 単位	－ 単位	－ 単位

生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)	中退率
200 人	249 人	81 人	33 %	3 %

就職等の状況

■卒業者数 (C)	97	人
■就職希望者数 (D)　：	79	人
■就職者数 (E)　：	79	人
■地元就職者数 (F)　：	60	人
■就職率 (E/D)　：	100	%
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	76	%
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	81	%
■進学者数	15	人

■その他

（令和　　6 年度卒業者に関する令和７年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和6年度卒業生）

自動車販売会社、自動車整備工場、自動車メーカー、評価会社

35

■民間の評価機関等から第三者評価：　無

※有の場合、例えば以下について任意記載

評価団体：　　受審年月：　　評価結果を掲載したホームページＵＲＬ

当該学科のホームページURL

https://www.toyota-kobe.ac.jp/education/general/

企業等と連携した実習等の実施状況（Ａ、Ｂいずれかに記入）

（Ａ：単位時間による算定）

総授業時数	2,045 単位時間
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間
うち必修授業時数	2,045 単位時間
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	34 単位時間

（Ｂ：単位数による算定）

総単位数	－ 単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	－ 単位
うち企業等と連携した演習の単位数	－ 単位
うち必修単位数	－ 単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	－ 単位
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	－ 単位
（うち企業等と連携したインターンシップの単位数）	－ 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	8 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	1 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	1 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	0 人
計		10 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	4 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

自動車整備業界に関し知見を有する団体（兵庫県自動車整備振興会等）、及び主な就職先であるトヨタ販売会社の役職員を含む「教育課程編成委員会」を設置して
①就職先企業等において求められる人材像と専門性の動向
②国または地域の産業振興の方向性
③新技術の導入・普及に伴い新たに必要となる実務に関する知識、技術、技能
④その他教育課程に関する事項を十分に把握、分析し、企業等の委員の意見を踏まえて教育課程（授業科目、授業内容、方法）を編成し、実践的かつ専門的な職業教育の質の向上を図る。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

1. この委員会は、自動車整備科の授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を審議し、次年度以降の教育課程編成案を作成する。
2. 前項において、まず企業等の委員からの意見を求め、学校側委員との意見交換を経て十分に相互理解を図るものとする。
3. 自動車整備科の教育課程編成案の作成においては、「業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員」または「専攻分野に関する学会や学術機関等の有識者」から1名以上、「実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員」から1名以上選任した委員の意見を踏まえるものとする。
4. 次年度の教育課程編成案の最終案は、学校側委員がとりまとめ校長の決裁を受けるものとする。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
井場元　彰久	一般社団法人　兵庫県自動車整備振興会	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日（1年）	①
金井　隆行	兵庫トヨタ自動車株式会社	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日（1年）	③
浅田　翔太	神戸トヨペット株式会社	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日（1年）	③
藤原　輝美	ネッツトヨタ兵庫株式会社	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日（1年）	③
山本　剛	ネッツトヨタ神戸株式会社	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日（1年）	③
上田　博之	専門学校トヨタ神戸自動車大学校	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日（1年）	―
水谷　伸彦	専門学校トヨタ神戸自動車大学校	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日（1年）	―
谷川　嘉夫	専門学校トヨタ神戸自動車大学校	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日（1年）	―
長澤　哲也	専門学校トヨタ神戸自動車大学校	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日（1年）	―
満田　克昭	専門学校トヨタ神戸自動車大学校	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日（1年）	―
為則　宏樹	専門学校トヨタ神戸自動車大学校	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日（1年）	―
秀嶋　孝嘉祐	専門学校トヨタ神戸自動車大学校	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日（1年）	―

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
（年間の開催数及び開催時期）
年3回　（6月、9月、1月）
（開催日時（実績））
第1回　令和6年7月12日　13:00～15:00
第2回　令和6年10月7日　14:00～15:30
第3回　令和7年1月22日　13:00～15:00

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

外部委員からの意見を踏まえ、以下の事項について、令和7年度に取り組む。（令和6年度第3回議事録参照）
①「TEAM-GPのG3のスキルで求められている技術力が足りない」というご意見を受けて、「新2級課程カリキュラムで、TEAM-GP G3のスキルを着実に修得できる授業を進め、教員によるスキルチェックを8割以上」とする
②「カタログに掲載されている新技術をお客様へ説明できる程度の知識は必要」というご意見を受けて、「2025年度より、トヨタ3校統一でマイスター検定制度の実施を計画し、トヨタHPに掲載している最新技術を学ばせることで商品知識の向上」を図る
③「講義、研修などの際に、聴く姿勢が取れていない方が見受けられる」というご意見を受けて、「トヨタ神戸校として、正しい受講姿勢を取り決め、期首より統一した指導」を実施

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

2年次に各学生の就職内定先を実習先として、学校で修得した知識・技術・技能や顧客応対を実践。その中で社会人意識や職業意識の高揚に取り組む。
【目的】
①学校で修得した知識・技術・技能や顧客応対を実践し、学校の授業と実際の現場との関連・違いを身をもって体験すること
②社会人意識及び職業意識の高揚を図ること
【概要】
主に洗車、オイル交換、定期点検の一部などの実作業を体験することで、サービス業務全般の流れの理解を行う

事前にインターンシップ実施要領書を受け入れ企業に提出、担当者と確認を行う。
インターンシップ期間中は定期的に企業担当者と連絡を取り、進捗確認を行う。
期間中、学生は日報を提出、企業から今後どのように努力･成長してほしいかご教授いただき、卒業までの課題･目標とする
企業は「チェックシート」にて研修学生の学修成果を評価し、学校にフィードバックする。学校はこの学修成果評価をもとに成績評価を行い、科目修得を認定する。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	企業連携の方法	科　目　概　要	連　携　企　業　等
インターンシップ	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	技術教育・業務教育で修得した知識・技能を企業において実践（体験実習）し、実務と結びつける。 サービスエンジニアとしての必要な素養を学び、個別課題に取り組み知識・技能を習得する。	兵庫トヨタ自動車株式会社 トヨタカローラ神戸株式会社 トヨタカローラ姫路株式会社 トヨタカローラ兵庫株式会社 ネッツトヨタ神戸株式会社 ネッツトヨタゾナ神戸株式会社 ネッツトヨタ兵庫株式会社 ネッツトヨタウエスト兵庫株式会社 大阪トヨタ自動車株式会社 大阪トヨペット株式会社 トヨタモビリティ新大阪株式会社 ネッツトヨタ大阪株式会社 トヨタカローラ大阪株式会社 トヨタカローラ京都株式会社 トヨタカローラ滋賀株式会社〃 トヨタユナイテッド奈良株式会社 和歌山トヨペット株式会社〃 ネッツトヨタ岡山株式会社 ネッツトヨタ山陽株式会社〃 徳島トヨタ自動車株式会社 ネッツトヨタ香川株式会社 愛媛トヨタ自動車株式会社 愛媛トヨペット株式会社〃□ ネッツトヨタ愛媛株式会社 ネッツトヨタ瀬戸内株式会社 福岡トヨタ自動車株式会社 ウエインズトヨタ神奈川株式会社 兵庫ダイハツ販売株式会社 いすゞ自動車近畿株式会社 トヨタL＆F近畿株式会社 （株）渡瀬レッカーサービス

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係			
（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 学校は、教育の目的及び教育目標を達成するために、教員の能力向上に努めるものとし、「教員研修規則」を定め、毎年度計画的に教員研修を実施する。 研修は、企業等との積極的な連携により①専攻分野における実務に関する知識・技術・技能、②授業力や指導力を修得・向上することを目的として実施し、より実践的な職業教育の質の向上に資するものとする。 なお、各々の教員が受講する研修は、教員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて決定するものとする。			
（2）研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名：	新型車・新機構研修	連携企業等：	トヨタ自動車株式会社
期間：	2024年4月22日	対象：	全教員
内容	新型クラウンスポーツの車両開発について		
研修名：	経営者講演会	連携企業等：	トヨタカローラ徳島株式会社
期間：	2024年7月10日	対象：	全教員
内容	「100年に一度の大変革」をテーマに、トヨタビジネスの全体像やその中での大改革、トヨタおよびトヨタカローラ徳島の具体的な取組みについて		
研修名：	自動車検査員実技教習	連携企業等：	自動車検査員実技教習
期間：	2024年7月19日	対象：	担当教員
内容	自動車検査の実施方法や自動車検査用機械器具の構造と取り扱いについて		
研修名：	OBD検査制度について	連携企業等：	OBD検査制度について
期間：	2024年8月19日	対象：	全教員
内容	OBD検査に関する制度や業務の流れ、診断装置を用いた体験、実施時の注意点について		
研修名：	整備主任者研修会（法令）	連携企業等：	整備主任者研修会（法令）
期間：	2024年10月17日	対象：	担当教員
内容	整備事業に関係する基本法令（道路運送車両法、道路運送車両の保安基準）の改正及び通達		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名：	教職員夏期研修会	連携企業等：	全国自動車大学校・整備専門学校協会（JAMCA）
期間：	2024年7月30日～8月2日	対象：	経験3年程度の教員
内容	教育心理、問題解決手法、チームビルディング等		
研修名：	教員教養講座	連携企業等：	社団法人兵庫県専修学校各種学校連合会
期間：	2024年8月6～9日（4日間）	対象：	全教員
内容	専修学校の現状と課題について 若者・Z世代が輝く兵庫の実現に向けて 日本語学校における日本語教育の現状について サイバー空間の危険から身を守るために 高専連携プログラム事業について 発達障害傾向の学生への関わり方 AI進化による社会構造と職業の変化 LGBTQについて		
研修名：	外国人に伝わりやすい「やさしい日本語」の使い方	連携企業等：	株式会社アイデム
期間：	2025年3月26日	対象：	全教員
内容	・外国人とのコミュニケーションの基礎 ・日本人と外国人の間で異なる文脈の捉え方 ・やさしい日本語」を用いた具体的な表現方法		

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	トヨタ自動車サービス技術研修	連携企業等：	トヨタ自動車株式会社
期間：	2025年未定（3日間）	対象：	全教員
内容	未定		
研修名：	整備主任者研修会（法令）	連携企業等：	一般社団法人兵庫県自動車整備振興会
期間：	2025年未定	対象：	整備主任選任者
内容	整備事業に関係する基本法令（道路運送車両法、道路運送車両の保安基準）の改正及び通達		
研修名：	整備主任者研修会（技術）	連携企業等：	神戸トヨペット株式会社
期間：	2025年未定	対象：	整備主任選任者
内容	未定		
研修名：	保安基準研修会	連携企業等：	一般社団法人兵庫県自動車整備振興会
期間：	2025年未定	対象：	全教員
内容	保安基準に関する研修会		
研修名：	新型車・新機構研修	連携企業等：	トヨタ自動車株式会社
期間：	2025年未定	対象：	全教員
内容	未定		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	教職員夏期研修会	連携企業等：	全国自動車大学校・整備専門学校協会（JAMCA）
期間：	2025年7月29日～8月1日	対象：	経験3年程度の教員
内容	教育心理、問題解決手法、コーチング技法、安全運転講習等		
研修名：	教員教養講座	連携企業等：	社団法人兵庫県専修学校各種学校連合会
期間：	2025年8月5～8（4日間）	対象：	全教員
内容	未定		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

トヨタ自動車ならびに就職先であるトヨタ販売会社、卒業生評議委員等のステークスホルダーを含む学校関係者評価委員会を設置して、実践的な職業教育を目的とした教育活動や学校運営について、社会のニーズを踏まえた目標設定ならびに、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さについて評価を受ける。さらに結果を公表することで社会への説明責任を果たすとともに、企業等の学校関係者の理解を深め、教育活動への連携・協力を得て学校としての組織的・継続的な改善を図るものとする。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	理念・目的・育成人材像
（2）学校運営	運営方針、事業計画、組織運営、人事・給与制度、意思決定システム、
（3）教育活動	教育方法・評価等、成績評価等、資格・免許の取得指導、教員・教員組
（4）学修成果	就職率、資格・免許の取得率、卒業生の社会的評価
（5）学生支援	就職等進路、中途退学への対応、学生相談、学生生活、保護者との連
（6）教育環境	施設・設備等、学外実習・インターンシップ等、防災・安全管理
（7）学生の受入れ募集	学生募集活動、入学選考、学納金
（8）財務	財務基盤、予算・収支計画、監査、財務情報公開
（9）法令等の遵守	関係法令・設置基準用の遵守、個人情報保護、学校評価、教育情報の
（10）社会貢献・地域貢献	社会貢献、地域貢献、ボランティア活動
（11）国際交流	なし

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

①「授業での外部診断機（GTS＋）の活用率を高めてほしい。また実技試験等でも使っていただきたい」とのご意見を受けてGTS＋を12台新規に導入。TCCS、定期点検、エーミング等の授業で活用。実技試験では操作方法とTCCSでの故障診断を出題。

②「重大事故を発生させない為にも、事故防止策を徹底していただきたい」とのご意見を受けて、安全啓蒙活動の再徹底を実施。具体的には原因調査と再発防止策の共有、ヒヤリハットおよび事故事例を毎月集約し同様の作業実施前に注意を喚起する。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名　前	所　　属	任期	種別
小島　満	トヨタ自動車株式会社	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日（1年）	企業
臼井　昌幸	兵庫トヨタ自動車株式会社	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日（1年）	企業
俵　克博	神戸トヨペット株式会社	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日（1年）	企業
原田　忠	トヨタ新大阪販売ホールディングス株式会社	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日（1年）	企業・ 卒業生
中川　幸士	ネッツトヨタ兵庫株式会社	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日（1年）	企業・ 卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

（ホームページ　・　広報誌等の刊行物　・　その他（　　））

URL：　https://www.toyota-kobe.ac.jp/about/disclosure/

公表時期：　令和7年7月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
「専門学校における情報提供等への取り組みに関するガイドライン」を踏まえ、以下のことを目的として、教育活動及び学校運営に関する情報を積極的に公開する。
①企業等の学校関係者の理解を深め、当校の実践的職業教育活動への連携・協力を得る。
②公的な教育機関として、情報公開により社会に対する説明責任を果たし、社会的な理解・評価を促進して教育の質のさらなる向上につなげる。
③入学希望者とその保護者に適切な情報を提供し、能力・適性に応じた適切な進路選択に資するものとする。なお、情報公開にあたっては、個人情報の取り扱いに十分留意するものとする。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	「学校概要・沿革」、「基本理念」
（2）各学科等の教育	「学科、カリキュラム、設備・教材」「就職・進路（実績）」「情報公開（授業方法・内容・計画・時間割）（学生数）（取得を目指す資格・検定）」
（3）教職員	「情報公開（教職員数・組織図・教員の専門性）」
（4）キャリア教育・実践的職業教育	「就職・進路（就職支援）」
（5）様々な教育活動・教育環境	「情報公開（学校行事の取り組み状況）」「キャンパス・寮情報（クラブ紹介）」
（6）学生の生活支援	「情報公開（学生の生活支援への取り組み）」
（7）学生納付金・修学支援	「学生募集要項（学生募集要項：入学金・学費等）（奨学金）」
（8）学校の財務	「情報公開（決算書）」
（9）学校評価	「情報公開（自己点検自己評価・学校関係者評価）」
（10）国際連携の状況	「学生募集要項（学生募集要項：外国人留学生の方へ）」
（11）その他	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法
（ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　））
URL：　https://www.toyota-kobe.ac.jp/about/disclosure/
公表時期：　令和7年7月31日

授業科目等の概要

	（工業専門課程 自動車整備科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			エンジン構造Ⅰ	潤滑装置の全体像と各部の名称・役割、冷却装置各部の構造と作動、エンジン本体各部の名称・役割・工夫の理解	1・前	30	－	○			○		○		
2	○			電気装置構造Ⅰ	オームの法則とヘッドライト回路による電気の流れの理解、スタータの構造と作動、バッテリの構造と充電・放電の仕組みの理解	1・前	30	－	○			○		○		
3	○			シャシ構造Ⅰ	「走る」「曲がる」「止まる」装置の概要、クラッチ・トランスミッション、ステアリング装置、制動装置の構造・作動の理解	1・前	30	－	○			○		○		
4	○			自動車力学Ⅰ	自動車工学に必要な単位・用語の理解、各種計算技能と性能曲線図などの見方の修得	1・前	38	－	○			○		○		
5	○			キャリア教育Ⅰ	トヨタ販売店の理念・体制理解と就職活動への繋げ方、将来設計・キャリアプランの考察、トヨタ創業の見識深化、コンプライアンス・ハラスメントへの考察	1・前	21	－		○		○		○		
6	○			エンジン実習Ⅰ	エンジンオイルの流れと潤滑装置の作動・制御の理解、冷却水の流れと冷却装置の作動・点検方法、および交換作業の習得	1・前	49	－			○	○		○		
7	○			エンジンオーバーホール	エンジンの分解・組付け・再始動までの一連作業体験と、適切な工具使用法・作業姿勢の習得	1・前	48	－			○	○		○		
8	○			電気装置実習Ⅰ	サーキットテスタの必要性と正しい測定、灯火装置の電気の流れの理解、および各種バルブ交換作業の習得	1・前	47	－			○	○		○		
9	○			電気装置実習Ⅱ	バッテリ交換・レスキュー作業とスタータの交換・点検作業の習得、およびバッテリ点検を通じた特性の理解	1・前	47	－			○	○		○		
10	○			制動装置実習	ガレージジャッキによるジャッキアップ・ジャッキダウン作業の習得、制動装置の種類・構造の理解、および点検・分解整備作業の習得	1・前	51	－			○	○		○		
11	○			駆動・操舵装置実習Ⅰ	駆動装置（トランスミッション、クラッチ）の構造・作動、および操舵装置の構造・作動の理解	1・前	47	－			○	○		○		
12	○			自動車基礎整備Ⅰ	車両の丁寧な取り扱い習慣と、正しい作業姿勢・工具の使い方の習得	1・前	50	－			○	○		○		
13	○			エンジン構造Ⅱ	点火・燃料噴射装置の構造・制御、排出ガスの発生過程・浄化方法、CAN通信の構造・機能、充電装置の作動・電気の流れとバッテリ関係の理解	1・後	38	－	○			○		○		
14	○			電気装置構造Ⅱ	コンビネーションメータの構成と基本作動、ワイパ機構の構造・作動、電気自動車等整備特別教育の修了、電子回路部品の特性・作動、空調装置の構造・作動の理解	1・後	40	－	○			○		○		
15	○			シャシ構造Ⅱ	タイヤの構造・バランスの理解と調整方法、空気充てん特別教育の修了、各種駆動・操舵・変速装置の構造・作動理解	1・後	35	－	○			○		○		

授業科目等の概要

	（工業専門課程 自動車整備科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
16	○			自動車力学Ⅱ	自動車工学に必要な単位・用語の理解と、各種計算技能・性能曲線図などの見方の習得	1・後	32	－	○			○		○		
17	○			キャリア教育Ⅱ	就職活動とコンプライアンスの学習、自動車産業のグローバルな視点とこれからの業界知識の習得	1・後	29	－		○		○		○		
18	○			エンジン実習Ⅱ	点火・燃料装置の仕組み、CAN通信の概要理解、スパークプラグ交換、エンジン排出ガス測定作業の習得	1・後	56	－			○	○		○		
19	○			エンジン実習Ⅲ	動弁機構・可変バルブタイミングの理解、過給機の構造・作動、オルタネータの発電原理と電気の流れ、ジーゼル・ガソリンエンジンの燃焼方法の違いの理解	1・後	53	－			○	○		○		
20	○			電気装置実習Ⅲ	コンビネーションメータ関連部品、ワイパー構成部品の構造・作動と電気の流れの理解、電気自動車等整備特別教育の修了	1・後	52	－			○	○		○		
21	○			電気装置実習Ⅳ	電子回路部品の特性・作動、空調装置の原理・構成部品・冷媒の流れ、先進安全技術の概要とエーミング作業の重要性の理解	1・後	54	－			○	○		○		
22	○			走行装置実習	タイヤ交換・バランス調整、空気充てん特別教育の修了、サスペンション構造とアライメントの理解、ブレーキ関連部品の交換・調整作業の習得	1・後	58	－			○	○		○		
23	○			駆動・操舵装置実習Ⅱ	ドライブシャフト、プロペラシャフト、ディファレンシャル、油圧式パワーステアリング、ATの構造・作動理解、および調整・分解・組付け・点検作業の習得	1・後	54	－			○	○		○		
24	○			自動車基礎整備Ⅱ	ドアロック・スマートエントリー機能の作動、内装部品の脱着方法と注意点、エアバッグ・シートベルトの安全な脱着、二輪車駆動装置の構造理解	1・後	51	－			○	○		○		
25	○			エンジン応用Ⅰ・Ⅱ	ジーゼルエンジンの燃焼方法、および燃料装置（インジェクションポンプ、インジェクションノズル）の構造・作動の理解	2・前	12	－	○			○		○		
26	○			エンジン応用Ⅲ・Ⅳ	予熱装置の必要性・作動、電子制御式ジーゼルエンジンの制御・作動、電子制御式燃料噴射装置の各種制御の理解	2・前	15	－	○			○		○		
27	○			エンジン応用Ⅴ・Ⅵ	ジーゼルエンジンのDPF、尿素SCR、可変吸気装置の工夫、特殊エンジン（過給機、LPG、可変バルブタイミング）の構造・作動の理解	2・後	2	－	○			○		○		
28	○			シャシ応用Ⅰ・Ⅱ	AT（トルクコンバータ、プラネタリギヤユニット）と大型車両の各種ブレーキ装置（エア・油圧式、フルエア、排気ブレーキなど）の構造・作動理解	2・前	17	－	○			○		○		
29	○			シャシ応用Ⅲ・Ⅳ	オートマチックトランスミッションの変速制御（油圧制御装置、CVT）の理解、大型車両のサスペンション・ステアリング・ディファレンシャルの構造・作動の理解	2・前	17	－	○			○		○		
30	○			シャシ応用Ⅴ・Ⅵ	パワーステアリング装置（油圧式、電動式）の構成・構造・作動、およびホイールアライメント各要素の必要性・点検・調整方法の理解	2・後	2	－	○			○		○		

授業科目等の概要

	（工業専門課程 自動車整備科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
31	○			自動車法規Ⅰ	道路運送車両の保安基準についての理解	2・前	14	－	○			○		○		
32	○			自動車法規Ⅱ	道路運送車両の保安基準と道路運送車両法の理解	2・前	12	－	○			○		○		
33	○			自動車検査Ⅰ	道路運送車両法についての理解	2・後	6	－	○			○		○		
34	○			自動車工学Ⅰ	自動車の原理原則に関する基礎的な工学の考え方と自動車に関係する各種計算問題の解き方を理解	2・前	17	－	○			○		○		
35	○			自動車工学Ⅱ	自動車の原理原則に関する基礎的な工学の考え方と自動車に関係する各種計算問題の解き方を理解	2・前	15	－	○			○		○		
36	○			自動車工学Ⅲ	自動車の原理原則に関する基礎的な工学の考え方と自動車に関係する各種計算問題の解き方を理解	2・後	16	－	○			○		○		
37	○			実践演習Ⅰ	国家二級自動車整備士試験で出題される各分野の問題について理解	2年	233	－	○			○		○		
38	○			エンジン応用Ⅰ	ジーゼルエンジン燃料装置構成部品の役割・作動理解、および基本点検・測定・調整作業の習得	2・前	24	－			○	○		○		
39	○			エンジン応用Ⅱ	電子制御式燃料噴射装置の燃料系統・インジェクタ制御回路、および基本噴射の考え方の理解	2・前	28	－			○	○		○		
40	○			エンジン応用Ⅲ	ジーゼルエンジンの予熱装置回路（グローシステム）の理解と、噴射時期の測定・調整方法の習得	2・前	31	－			○	○		○		
41	○			エンジン応用Ⅳ	電子制御式燃料噴射装置の補正噴射制御とセンサー特性、電子進角（ESA）およびアイドル回転数制御（ISC）、外部診断機の取り扱いの理解	2・前	32	－			○	○		○		
42	○			エンジン応用Ⅴ	過給機とジーゼルエンジン排気ガス浄化装置の構造・作動、およびジーゼルエンジントラブルシュートの進め方の理解	2・後	38	－			○	○		○		
43	○			エンジン応用Ⅵ	電子制御式噴射量装置の故障探求方法と配線図集の活用方法の理解	2・後	38	－			○	○		○		
44	○			シャシ応用Ⅰ	オートマチックトランスミッションのトルクコンバータとプラネタリギヤユニットの構造・作動の理解	2・前	23	－			○	○		○		
45	○			シャシ応用Ⅱ	大型シャシのホイール・タイヤ・アクスル・ブレーキ装置の構造と整備方法、ロープ捕縛作業の習得、安全・快適性に関する自動車電気装置（TSS、ナビゲーション）の機能理解	2・前	24	－			○	○		○		

授業科目等の概要

	（工業専門課程 自動車整備科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
46	○			シャシ応用Ⅲ	ATの油圧制御装置の構造・作動、AT各種点検（基本・機能・ECT）方法、カーエアコン構成部品の役割・作動、各種点検・冷媒回収・充填方法の習得	2・前	29	－			○	○		○		
47	○			シャシ応用Ⅳ	大型シャシのエアサス・リサーキュレーティングボール式ステアリング構造・作動理解、シャシ整備作業習得、エアバッグの構造・整備方法の理解	2・前	32	－			○	○		○		
48	○			シャシ応用Ⅴ	パワーステアリング装置（油圧式、電気式）の構造・作動の理解と、各部の分解・組付け・点検方法の習得	2・後	35	－			○	○		○		
49	○			シャシ応用Ⅵ	ホイールアライメント各要素の必要性・不具合時の影響、各種測定方法の習得、ハイブリッド車の動力分割機構共線図の理解	2・後	38	－			○	○		○		
50	○			総合Ⅴ	日常点検・プロケア10点検の方法、判定基準、記録簿記入の習得、多頻度作業（タイヤローテーション、ファンベルト交換）の習得	2・後	24	－			○	○		○		
51	○			総合Ⅵ	１２ヶ月定期点検の方法、判定基準、記録簿の記入方法を修得	2・前	24	－			○	○		○		
52	○			総合Ⅶ	ハイブリッド車のメンテナンス（ブレーキフルード交換、冷却水点検・エア抜き）と24ヶ月定期点検、検査ライン機器の取扱方法の習得	2・後	38	－			○	○		○		
53	○			実践演習Ⅰ	自動車販売会社就職後、即戦力化	2年	92	－			○	○		○		
54	○			社会人入門Ⅲ	トヨタ販売店のサービススタッフとして必要となる業務知識、教養を修得（16時限）インターンシップ（34時限）	2・前	50	－		△	○	○	○	○	○	○
55	○			社会人入門Ⅳ	トヨタ販売店サービススタッフとしての業務知識・教養の習得、および国家二級自動車整備士試験出題分野の問題理解	2・後	120	－		○		○		○		
合計					55　科目			2045 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	２年次の修了が認められ、学科・実習それぞれ補講を含めた出席時間数が一種自動車整備士養成施設指定基準の定めによる教育時間数を満足していること	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	各年次毎に、定められた全科目の修得試験に合格しており、各年次における補講を含めない正規授業への出席率は、８０％以上であること	１学期の授業期間	20 週

（留意事項）

1　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。